

授業科目名 (サブタイトル(副題))	臨床医学概論		
担当者	市川 寛		
[アクティブラーニング授業]			
PBL(課題解決型)		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
<p>[到達目標]</p> <p>①各種の症状を来す病態生理を理解すること。 ②臨床医学に必要な症状を把握すること。 ③臨床医学に必要な疾病の概念について理解すること。 ④臨床用語について理解すること。</p> <p>[授業概要]</p> <p>臨床現場で診察を行っている医師がその経験も踏まえ、疾患の理解のみならず患者さんとのコミュニケーションを含め指導します。各種疾患の病因、発症、経過より診断、治療の概念、方法を学んでいきます。解剖生理学、生理学、病理学などについても復習し、補習していきます。 授業の内容を再度自分自身中で再考し、将来実社会の臨床の現場で生かせるよう吟味するようにしてください。質問等あれば授業中・授業後問わず積極的にお願いします。</p> <p>[準備学修(予習・復習)の内容・時間]</p> <p>疾患の診断・治療を理解するにはその疾患の病因を知ることが大切です。また病因を知り理解するには基礎である生化学・生理学・解剖学の知識が非常に重要となってきます。各授業でのテーマの臓器に関して、授業前に再度基礎の復習をしてください。それにより病因および診断・治療の理解が容易になり、より深い知識が身に付くものと考えます。 各回の講義についての予習・復習を行うこと(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 疾患診断の概要 (問診・診察・主な徴候) 2. 疾患診断の概要 (臨床検査:検体検査・生理学的検査・画像検査、治療:根治治療と保存治療) 3. 消化器疾患-消化管 (上部消化管の解剖と生理・下部消化管の解剖と生理) 4. 消化器疾患-消化管 (上部消化管・下部消化管の疾患の理解と治療) 5. 消化器疾患-胆・肝・膵疾患 (肝臓の果房と生理・疾患の理解と治療) 6. 消化器疾患-胆・肝・膵疾患 (胆嚢・膵臓の解剖と生理・疾患の理解と治療) 7. 循環器疾患 (心血管系の解剖と生理・血圧及び体内血行動態の整理) 8. 循環器疾患 (心疾患の理解と治療:心不全・虚血・不整脈・心筋症・弁膜症) 9. 腎・尿路系疾患 (腎及び尿路・膀胱の解剖・生理と疾患) 10. 内分泌・代謝疾患Ⅰ (血糖コントロールの機序) 11. 内分泌・代謝疾患Ⅱ (糖尿病の病態の理解と治療) 12. 臨床医学概論全般に渡る復習・確認 13. 終末期におけるスピリチュアルケア <p>[成績評価方法]</p> <p>小テスト(40%)、授業態度(60%)で評価します。</p> <p>[課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法]</p> <p>課題についての回答・質問を受け付けます。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[メールアドレス]</p> <p>hichikaw@mail.doshisha.ac.jp</p>			

授業科目名 (副題)	臨床医学概論
担当者	市川 寛
<p> [この授業と関連する学科のディプロマ・ポリシー(DP)] 【食栄1-2】栄養と健康に関する専門知識を身に付けている。 成績評価方法: 小テスト(40%)、授業態度(60%)で評価します。 【食栄1-3】食育の実践に必要となる知識・技能を身に付けている。 成績評価方法: 小テスト(40%)、授業態度(60%)で評価します。 【食栄1-4】健康管理を行うために必要となる知識・技能を身に付けている。 成績評価方法: 小テスト(40%)、授業態度(60%)で評価します。 【食栄1-6】食と健康に関する研究を行うために必要となる知識・技能を身に付けている。 成績評価方法: 小テスト(40%)、授業態度(60%)で評価します。 【食栄3-2】食と健康に関する問題を主体的に学ぼうとする態度を身に付けている。 成績評価方法: 小テスト(40%)、授業態度(60%)で評価します。 </p> <p> [テキスト(ISBN)] 特にありません </p> <p> [参考文献(ISBN)] </p>	